

▼東海

麻雀クラブの活動報告

下村 兼敏(NBN)

私が麻雀クラブに参加するようになつたのは、約10年前。その頃は男性ばかりで、3~4卓を埋める人数でやつていました。

しかし、皆さんのが高齢のため、1人抜け、2人抜けとメンバーがどんどん減り、数年前には1卓分の人数しか集まらなくなりました。それに加え、コロナも蔓延しました。それで、一旦休部ということになりました。

3年ほど経ち、麻雀を再開してほしいという声が上がったのでメンバーを募つた所、男性陣はほとんど集まらず、それに引き替え、女性陣で麻雀を覚えたいという方が複数いて、昨年から「初級者麻雀」という事で再開しました。すると今度は男性の新しい方もやりたいという事で、今年に入つてから男性陣も1卓設ける事ができるようになりました。まだベル差が非常にありますので、男女と一緒に卓を囲むことは難しく、溢れた男性が女性陣の後ろから指導している段階です。

現在では女性5名、男性8名のメンバーで月1回開催しています。親睦を一番に考えていますので、麻雀が終わつた後、近くの居酒屋で親睦を深める事を恒例にしています。これからもずっと脳と指先を鍛えていきたいと思っています。



東海民放クラブ カメラ部会
白川郷 田植え祭り 撮影行

阪田 晃(THK)

やきもきしていった今年度の白川郷田植え祭りが、5月28日に実施されると白川郷観光協会から発表されたのがゴールデンウイーク明けの5月8日。早速、カメラ部員に連絡し出欠を諮つたものの、遠日程的に厳しかつたか、参加者は

トホホの2人だけとなりました。予約した名古屋駅発7時50分発の直通バスに乗り込んだところ、乗客は日本人4名、東洋系6名、欧米系5人。最近のインバウンド・ブームを反映してか国際色豊かなバス旅となりました。

運よく梅雨の晴れ間となつた奥美濃路、奥飛騨路は新緑がまぶしく、田植えが始まつた水田が両窓に拡がり、祭りの期待を搔き立ててくれます。

10時30分、現地着。早速、今年の田植え祭り会場へ急ぎました。10時開始の田植えはすでに始まつており、30名ほどのカメラマンと報道陣がずらつとカメラを構えて囲んでいました。年齢構成はほぼ50歳以上、最近は女性が半数以上となっています。

赤い襷の早乙女達が茅葺屋根を背に横一列に並び、地元の老人3人の歌う田植え歌に合わせて「♪はあー、ちよばん、ちよばん」と「と」口ずさみながら苗を手植えする様子を夢中でカメラに収めました。毎年、田植えの田んぼを変えて行われる祭りですが、遠景に残雪の白山連峰が聳える場所は白川郷でも限られます。今

回は天候もよく、期待通りの写真を撮ることができ、大満足の一日でした。

